

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	2875001204		
法人名	有限会社 健幸会		
事業所名	グループホームさくらの家		
所在地	兵庫県神戸市北区八多町中1367番地 (電話) 078-952-1088		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年3月17日	評価確定日	2008年5月28日

【情報提供票より】(平成20年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 6 人, 非常勤 13 人, 常勤換算12.15	

(2) 建物概要

建物構造	R C 造り		
	2 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	88,300 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(198,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 370 円
	夕食	370 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	3名	要介護2	5名
要介護3	9名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 83.5 歳	最低 74 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	細川医院、済生会兵庫県病院、恒生病院、平島病院、岩田歯科医院、くらた眼科
---------	--------------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・医療機関が設立母体のグループホームなので医療体制が確保され、家族は安心している。看取りも本人、家族と話し合い、できるだけ意向に沿えるよう努めている。季節感のあるディスプレイに留意しアンティークな家具を配置、見た目が美しく施設らしくない雰囲気作りがされ、明るい中庭等共有スペースは落ち着いた環境づくりがなされている。地域密着の関係作りにも配慮されているが、地域との連携がより深まれば、利用者の生活の幅が広がり、QOLの向上がさらに期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)	・前回の評価を通して・危険な物の保管場所の整備・ヒヤリハットについて家族に逐一連絡する・職員の確認サインの徹底・職員が利用者と一緒に食事する等積極的に改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)	・自己評価は施設長、主任、事務長で行い職員は関わっていない。評価を通して、職員がよく働いてくれていることと、研修による人材育成の重要性を再確認した。前回の評価で受けた指摘を改善し質の向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)	・地域住民、民生委員、行政と事業所管理者、職員が出席して会議を開催している。利用者、家族の参加はない。事業所の現状報告や地域のニーズ等を主に話し合っている。事業所独自の地域密着型サービスの理念の検討にも参画してもらっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)	・ホーム便りに担当職員から利用者の暮らしぶりを伝える個別メッセージを入れ、家族等へ報告している。家族来訪時に利用者ごとくつろいで過ごせるよう、宿泊可能な家族室が準備されている。家族会はあるが現在活動していないようなので、家族が意見交換し、苦情、不満が出しやすい場として活用が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)	・さくらの家の祭りに地域の人々を招待したり、地域の行事に利用者が参加する等地域住民との交流を図っている。事業所の機能を活かし、認知症理解の講師派遣や相談も受けている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・その人らしく生活できる利用者主体を基本にしている。ホームは地域からの勧めで開設し、理念に「地域との交流を大切にする」が含まれている。現在運営推進会議で地域密着型の新しい理念を作成中である。		・地域密着型サービスとしての具体的な理念作成が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・利用者主体の日々の関わり方や言葉遣い、身体拘束ゼロ等理念に基づいた話し合いを管理者、職員で定例会(月1回)や毎日のミーティングで行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・さくらの家の祭りに地域の人々を招待したり、地域の行事に利用者が参加する等地域住民との交流を図っている。公園で顔見知りになった子どもたちが訪問してくれる。認知症理解に関する講師派遣や相談も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は施設長、主任、事務長で行い職員は関わっていない。評価を通して研修による人材育成の重要性を再認識した。前回の評価で指摘を受けた点を改善し質の向上に努めている。		・自己評価を全職員で行うことによって、一連の過程を通してケアの振り返りや見直し等に活用されたい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・地域代表、民生委員、行政、事業所管理者、職員が出席し、事業所の現状報告、地域のニーズ、参加者の助言等双方向の話し合いを行っている。地域密着型サービスの理念の検討にも参画してもらっている。</p>		<p>・会議に家族、利用者も参加し地域との交流と意見交換の場となることを望む。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・行事や運営推進会議以外の連携はなかなか取れていない。</p>		<p>・事業所の実情を理解してもらい、サービスの向上につながる連携を期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・月一回利用者の暮らしぶりを伝えるホーム便りを発行し、担当者から家族へ個別メッセージも入れている。受診結果等の連絡は個々に電話や来訪時に行っている。家族来訪時に利用者と話したり、そのまま宿泊できる家族室が準備されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族等は苦情は出しにくいので、積極的に、苦情や不満が出るような配慮をしていきたいと考えている。</p>		<p>・家族会はあるが現在活動していないようなので、家族が意見を交換できる場として活用されたい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員交代の利用者へのダメージを防ぐため、新旧職員の引継ぎは慎重に行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修は情報を職員に提供し、外部研修出席者による伝達研修を行っている。定例会でも、介護方法等の勉強会を行っている。		・事業所としては、内部研修、外部研修にさらに積極的に取り組みたいと検討している。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今年から特養、老健施設との交流が始まった。個別に地域の事業所との交流はあるが、同業者との交流は不十分だと考えている。		・同業者の連絡会作りに取り組んでもらいたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・併設のデイサービスの体験やホーム見学等を通して、馴染みながらの利用につなげている。入居時は家族と相談し、使い慣れた品や趣味のものを持ち込み、安心して暮らせる配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者から生活の知恵を教わったり、時には励ましの言葉がけをしてもらっている。利用者とお互いの支えあい関係作りを目指し、職員同士で話し合っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・アセスメントを通し、家族や利用者の思いや意向を把握している。くつろいだ時ふと出る利用者の言葉をよく聴いて連絡ノートに書きとめ、利用者理解に努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・担当職員の介護計画原案を基に、利用者、家族、施設長、ケアマネジャー、職員でサービス担当者会議を開き、医師の意見も取り入れて作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・担当者交代時に（6ヶ月に1回）見直しシートを作成し改善点を申し送っている。個人ファイルに生活課題をその都度記入し、見直しの参考にしている。</p>		<p>・事業所は見直し期間を3ヶ月に1回と定めているが、まだ十分に行えていない。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・個別の外出や外出、旅行支援などにも出来るだけ要望に応えている。入退院時や入院中の必要な支援も行っている。また、利用前の体験や馴染んでもらう機会として併設のデイサービスの利用も勧めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・週2回、かかりつけ医の往診がある。職員は事前に利用者の状態を確認し、必要な処置が取れるようかかりつけ医との連携に努めている。認知症の対応についても日々職員が相談できる環境にある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入院時に、状態悪化や終末に向けた対応について本人、家族と話し合いをしているが、状況変化の度に再度確認している。かかりつけ医とは常時連携が確保でき、安心できる環境づくりに努めている。</p>		<p>・看取りの指針について文書による契約書の作成を準備しており、本人、家族の希望に沿った総合的な支援を検討している。</p>
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・人権を守ることをまず念頭においている。特に入浴、排泄時での声かけのタイミングについては、周りの状況を見て対応している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・一人ひとりの希望する過ごし方、ペースを尊重している。管理的にならないよう、職員の都合が優先されないよう絶えず振り返り、全職員が個々に意識している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食事は建物内の厨房で作られ、職員と利用者が一緒に配膳、後片付けなどの作業を行っている。メニュー以外に、個々の好みや健康状態に配慮した対応も行っている。月1回は献立作成から買い物、調理にいたる作業を利用者と一緒に行う機会としている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・基本は個々の希望日、時間に入浴している。気がすすまない人には気分を変えて、近所の温泉や併設デイサービスでの入浴を選択してもらうなど、無理強いはしないように配慮している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・利用者個々に、趣味や楽しみの時間を積極的に作るよう努めている。これまでの経験から薪能鑑賞や絵画教室への参加等、好きなことやりたいことが継続できるよう支援している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・スーパーへの買い物、図書館や周辺の散歩など、時々に応じ職員が同行、または見守りの支援をしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・防犯上の夜間の施錠のみである。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回、昼間・夜間想定防火訓練を行っている。運営推進会議での呼びかけを含め、地域には日ごろから、協力をお願いに努めている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・栄養バランス、カロリーを考慮したメニューで季節感にも配慮している。個々の食事、水分摂取量を把握し、体調の変化や慢性的な症状にもかかりつけ医との連携を図りながら即時対応している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・中庭を囲んだりリビングからは、季節のうつろいが身近に感じられる。玄関や喫茶フロアー、階段にはグリーンや花、骨董の家具や調度品が随所に置かれている。周辺は、ホーム名でもある桜の名所になっており、自然に恵まれた環境である。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・個々の使い込んだ家具や好みの装飾品が飾られ個性的な居室になっている。利用者のこれまでの生活の様子がかがわれ、ホームも居心地良く過ごせるよう継続した支援に努めている。</p>		

 は、重点項目。